



<http://www009.upp.so-net.ne.jp/dtkk/index.htm>

◆大学図書館問題研究会京都ワンディセミナーのご案内◆

## 「利用者の立場から見た大学図書館」

日 時：6月28日（土）午後1時30分より（午後1時15分より受付開始）  
 場 所：京都アスニー 第4研修室（3F） 京都市中京区丸太町通七本松西入ル  
 TEL：075-802-3141 本誌8ページの会場案内地図もご覧ください。  
 参加費：500円（会費は当日徴収させていただきます）

大学図書館のいちばんの「お得意様」は大学院生ではないでしょうか？では彼たち彼女たちは、図書館をどのように使い、そして何を図書館に求めているのでしょうか？昨年、「図書館を利用する側」として先生をお招きした京都ワンディセミナー、今回は院生さんのナマの声を聞ける場をご用意します。未来の研究者といっしょに、これからの図書館を考える機会にしませんか？皆さまのご参加をお待ちしています。

今回は京都大学をひとつの例として取り上げます。始めに図書館員から利用者教育の事例報告、ついで文系・理系の大学院生と図書館員、フロアを交えてのパネルディスカッションを予定しています。

申込方法と詳細については京都支部ホームページをご覧ください。  
<http://www009.upp.so-net.ne.jp/dtkk/news/seminar0305.htm>

### プログラム：

- 13:30-14:00 事例報告1  
 「京都大学附属図書館における情報リテラシー」 藤原由華氏（京都大学附属図書館）
- 14:00-14:30 事例報告2  
 「京都大学工学系図書室における情報リテラシー」 大橋亜紀子氏（京都大学工学研究科・工学部物理工学系図書室）
- 14:30-14:45 休憩
- 14:45-16:00 パネルディスカッション（進行：呑海）  
 パネリスト 生津知子氏（京都大学教育学研究科博士課程）  
 金智鉉氏（京都大学教育学研究科博士課程）  
 薄良彦氏（京都大学工学研究科博士課程）  
 呑海沙織（京都大学人間・環境学研究科総合人間学部図書館）  
 赤澤久弥（京都大学工学研究科・工学部電気系図書室）
- 16:00-17:00 質疑応答 ※セミナー終了後、懇親会を予定しています。  
 大図研の会員でない方のご参加もお待ちしております。

### [目次]

大学図書館問題研究会京都ワンディセミナーのご案内	...	1
京大図書館史こぼれ話 その一 廣庭 基介	...	2
大図研京都数珠つなぎ 第66回 大橋 亜紀子	...	3
京都大学附属図書館における情報リテラシー教育 藤原 由華	...	4
2002年度会費納入のお願い	...	7
大図研京都支部共催企画・学術情報ワークショップのお知らせ	...	7
ワンディセミナー 会場案内地図	...	8

○ ご意見・ご要望、投稿は下記、電子メールまたはURLへお寄せください。

電子メール：dtkk@rg7.só-net.ne.jp（大学図書館問題研究会京都支部）

URL：http://www009.upp.so-net.ne.jp/dtkk/index.htm

## 京大図書館史こぼれ話 その一

廣庭 基介

## はじめに

私はコンピュータがらみの話題は難しい時代の人間ですので、それ以外の肩の凝らない話題、とは云え、大切な大図研の紙面を使用するのですから、私がどうしても云い残しておきたいと予てより温めておいた大學図書館がらみの話題を書かせて頂きます。ただし、最初の内は、おいそれと大學図書館がらみの部分が出てきませんが、あわてないで、御辛抱願います。

## 1：京大初代図書館長島文次郎博士と「老いらくの恋」事件

本誌の読者諸兄姉は「老いらくの恋」という、終戦直後時代の人口に膾炙した有名なフレーズを御存知でしょうか。「老いらくの恋」とは、太平洋戦争の敗戦直後の1947年に起こった事件でした。戦時中に『愛国百人一首』を編纂したり、敗戦後皇太子（現在の天皇）の和歌の講師を勤め、歌会始の選者にもなったりしたアララギ派歌人・川田順（当時66歳）の元へ京大経済学部教授を戦争容認の廉で公職追放になり、解職になったばかりの失意の夫・中川与之助博士と、三人の我が子を捨てて走った同教授の妻・俊子（当時39歳）との恋愛事件を、川田自身が「死なむと念ひ生きむと願ふ苦しみの百日つづきて夏去りにけり、墓場に近き老いらくの恋は恐るる何もなし」と詠ったことから生まれたフレーズでした。そして、その恋が生まれた場所が京都帝国大学附属図書館初代館長・島文次郎博士の御屋敷であったのです。（廣庭注：中川俊子は、筆名に結婚前の実家の姓を使って「鈴鹿俊子」と書いたり、川田順と結婚してから書いた物には「川田俊子」と書いたりしており、前夫・中川与之助教授の夫人であった時分のことを語る時には当然、「中川俊子」と書いているので、ややこしいので、すべて「俊子」のみにします）

その経緯を述べる前に、「老いらくの恋」というフレーズについて『日本国語大辞典』の解説を見ておきましょう。『老いらくの恋』の項の説明は「老後の恋愛、老人の恋愛。\*徳田秋声（1953）〈平野謙〉『老いらくの恋』—こんな言葉も戦後の混乱現象に乗じて出現したものだが」となっており、インターネットで「徳田秋声 平野謙 『老いらくの恋』」で検索すると、今一つ私の検索技術が下手なのか、確固とした解答が得られなかったのですが、意識すると、平野謙が1953年に、文学者論において取り上げた徳田秋声の事項の中で、例として、敗戦直後に起こったアララギ派歌人・川田順の「老いらくの恋」に言及したものらしく、「こんな言葉も戦後の混乱現象に乗じて出現したものだが」と、どちらかというネガティブな感情を滲ませて辞典で解説しているのは、当時は世間一般のみならず、文学者の間でも、戦後の混乱期に世間を騒がせた「老いらくの恋」事件を、あまり褒められたものだと思われていなかったことを表しているものと考えられます。

さて、本題の島博士邸における川田順と俊子の出会いはどんな様子であったのか、について述べなければなりません。その前段として、川田順と島文次郎博士の関係から見る必要があります。

川田順の父親は川田剛（号は甕江）といい、儒学・漢文学に優れ、幕末に備中松山藩主板倉氏の藩校有終館の教授を勤め、後に明治新政府の太政官正院に入り、明治4年度の『袖珍官員録』によれば、権大外史の官職に就いていました。

明治初年、まだ内閣制度となる前太政官に正院（天皇親臨のもと、万機を総覧する）・左院（立法上の諮問機関）・右院（行政に関する実務の利害を審議）の三院が置かれていた時代があり、正

院には太政大臣、左大臣、右大臣、4名の参議、その下に宮内・太政官内の書記を司る<sup>だいないし</sup>大内史以下、<sup>ごんのしょうないし</sup>権少内史に至る史官（書記官）が6名配置されており、これに対して、宮内・太政官内以外の文書を司る書記として、大外史1名、以下権大外史1名、六等出仕1名、権少外史7名、さらにその下に大主記8名、八等出仕1名、権大主記5名、九等出仕3名の以上合計27名が配置されていました。川田剛は後の呼び方では権大書記官という当時の金額で月俸250円の高級官僚でありました。（以下、次号へつづく）

ひろにわ もとすけ（元京大図書館員）

連載コーナー 大図研京都数珠つなぎ 第66回

京都大学工学研究科物理工学系図書室

おおはし あきこ  
大橋 亜紀子 さん

大図研に入って1,2ヶ月、何故いきなり原稿？という状態です。たまたま支部委員の方々が周りに多い環境に居たのが原因でしょうか…。日頃お世話になっている恩返しが少しでもできればと思い、お引き受けしました。

さて、このコーナーは何を書いても良いと言われましたが、何しろネタがない。某氏には、「暖房器具について書いたら？」と言われましたが、季節柄それもどうかと思われまして、「ある物理工学系図書室の一日」というネタも振られたのですが…ちょっと話がまとまりそうにない。かなり悩んだのですが、現在のお世話になっている京都大学工学部等図書室の最近の動きについて、少しご紹介致します。

工学部等図書室、というのは、工学部・工学研究科の10の図書室及び、エネルギー科学研究科図書室、情報学研究科図書室の工学系図書室を集めた総称です。エネルギー科学研究科と情報学研究科は、大学院のみの研究科ですが、その下の学部は、工学部に含まれるため、工学部等図書室として数えられます。これらの図書室に勤務する職員は、共通して「総務課図書掛」の肩書きを持つとはいえ、日常業務においては、基本的には完全に独立した図書室として個々に機能しています。にもかかわらず、「工学部等図書室」としてのお仕事とは…、いくつかあるのですが、大きなものは次の2つです。

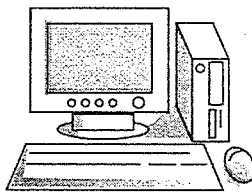
一つは、工学研究科の桂キャンパス移転に伴い、これまで専攻別に抱えていた図書室を、工学研究科の図書館として、桂キャンパスに一館建設される事になりました。その準備の為、図書・雑誌・サービスの3つのサブグループを工学部等図書室の職員で結成しています。5,6年前からワーキンググループ等の動きはあったのですが、ここ2,3年のサブグループは、移転に向けて必要となる具体的作業に絞って検討を進めています。一例としては、遡及入力にあたっての各図書室の具体的な作業量調査、重複雑誌整理の為の共通雑誌リスト作成、キャンパス間の文献複写・現物貸出のデリバリーについて他学部との折衝などです。この検討結果を、教官層にどうアピールしていくかという事も課題として挙げられています。

二つ目は、平成14年度で第4回を迎えた、文献収集講座の開催です。これは、工学部・工学研究科所属の利用者のうち、学部四回生以上を主な対象とした利用者教育です。工学部等図書

室の中から数名が中心となって企画にあたりますが、中心メンバー以外の職員からも、実際に講習をする人、人脈を生かして他部局の講習会場を手配する人などの協力者を募って運営されます。第3回目までは講義形式でしたが、第4回目は以前より要望の高かった演習形式を取り入れました。約2ヶ月に渡って、演習形式は1回90分の演習3種類を各2回開催し、外部の講師を招いての講義は3種類を各1回行いました。資料・内容等はホームページに掲載してありますので、興味のある方はご覧下さい。これらの利用者教育は、本来であれば個々の図書室で実施すべきものかもしれませんが、それぞれの規模が小さいことやここ数年の図書室統合・人員削減、桂移転への準備等により、中々手が回っているとは言い難い現状。工学部内には一人職場どころか、職員が配置されていない図書室もあり、その所属者の参加も多く見られる事。また桂図書館に向けて図書職員間の協力体制を作り上げる事を考えると、できるだけ工学部等図書室全体で取り組んでいく体制を維持していくのが望ましいと思われます。ただし、各専攻図書室主催となっていない為に、研究室と乖離している感があり、今後どのように取り込んでいくかが課題として挙げられます。また、今年度から、実際に電気系・化学系の移転が始まっており、どのような形で継続していくかについても課題となっています。

以上が、京都大学工学部等図書室の近況です。これをお読みの方々の中には、元工学部・現工学部の所属の方々も多くおられますので、こういうものを書くのはお恥ずかしい限りなのですが、今後ともよろしくお願い致します。

ちなみに、今年の冬は遠赤輻射熱暖房器具が店頭に並ぶはずです。仏の○ャンパ製の物は、昨冬の通○生活にも掲載されていたそうです。ハログンヒーターとは異なり部屋全体を暖め、しかも空気を汚さず、乾燥もさせない優れものだそうで…ああ、来年の冬が待ちどおしい。皆様も店頭で見かけたら是非あたって見てください。そして私にご一報を。



## 京都大学附属図書館における情報リテラシー教育

藤原 由華

### 1. はじめに

昨今、どの大学図書館でも「情報リテラシー教育」という言葉を頻繁に耳にされることでしょう。図書館の利用者教育は以前から一つの業務として行われていたことですが、今、新たに「情報リテラシー教育」の重要な一部としての図書館利用教育が脚光を浴びています。本稿では、京都大学附属図書館（以下、当館）における「情報リテラシー教育」の具体例をご紹介します。

当館では、情報リテラシー教育を主に担当しているのは情報サービス課参考調査掛です。掛長1、掛員（定員）2、非常勤1の計4名で構成されています。掛の業務としては、情報リテラシー関係とレファレンス業務が二本の柱となっています。

### 2. 図書館主催のガイダンス

#### 2.1 オリエンテーション

当館では、4月の入学式の週に5回「新入生歓迎オリエンテーション」、10月に2回「留学生のための図書館ツアー」を行っています。

「新入生歓迎オリエンテーション」は毎日昼休みに30分、月～金まで計5回、当館3階AVホールで行います。パワーポイントを用いて、当館の施設案内、利用方法等の概要を説明します。広報として、全新入生に配る「利用のしおり」にビラをはさみこむ、「住所登録」カウンターに来た学生にビラを渡す、看板を立てる、本番15分ほど前から図書館前でビラまき、呼び込みをする、館内放送で案内する、等を行います。例年、5日間で400人程度の参加者があります。

「留学生のための図書館ツアー」は、留学生課からの依頼により行っているもので、「京都大学国際教育プログラム参加学生」30名ほどと、「日本語・日本文化研修留学生」20名ほどを対象に各1回ずつ行います。どちらも、まず30分ほどAVホールでパワーポイントを用いて当館の施設案内・利用説明をしたあと、15分ぐらいで簡単な館内ツアーをします。「国際教育プログラム」の学生は日本語が堪能でないので、通訳がつかます。

## 2. 2 定期講習会

当館では、現在、4種類の講習会を「定期講習会」として開催しています。これは、「いつでも時間のあいたときに」受講できるように、同じ内容を、曜日・時間をいろいろ変えて、一年を通じて常時開講しています。現在のメニューは、「OPAC基礎講座」「雑誌記事索引講座」「Web of Science 講座」「電子ジャーナル入門講座」で、「Web of Science 講座」は1回40分、他の3つは1回30分です。すべて実際に端末に触れながら行う実習形式です。先着5名までとし、当館1階のサイバースペースで行っています。日程等は、館内掲示のポスター、毎月発行のサービス案内リーフレット「LSN」、当館ホームページ等でお知らせしています。

## 2. 3 データベース・電子ジャーナル等講習会

これは、新しいデータベースが入った場合や、あるいはSciFinder Scholar等の専門性の高いデータベース等の場合に、提供元から講師を招いて講習会を開催するものです。AVホールでの講義形式で行います。どんな講習会を行うかは、年によって異なります。

## 2. 4 文献収集講座

「定期講習会」は特定のデータベース等の具体的な操作方法等を知らせるものですが、ほかにどんなツールがあるのか、どんなことができるのか知りたいという声の利用者からしばしば聞かれます。そこで、そのため、数年前に当館で行っていて、後述の「情報探索入門」開始に伴い中断されていた「文献収集講座」を今年度から再開することにしました。これは、詳細はまだ未定ですが、パワーポイントを使い、40分程度の講義形式で数回行う予定です。主に卒論を書く3・4回生を対象に、個々の具体的な検索方法ではなく、文献収集の流れと基本的なツールの紹介をしようと考えています。

## 3. 授業との連携

### 3. 1 全学共通科目「情報探索入門」

図書館が独自で行うのではなく、カリキュラムと一体となって、授業と連携して行っている情報リテラシー教育としては、今年度で6年目となる「情報探索入門」という授業があります。これは全学共通科目（原則、全学部の学生に向けて開講される科目）の1つとして開講されています。6名の教官のリレー講義で、そのうち4名の講義は演習とセットになっており、演習に図書館職員が「演習補助者」として参加します。2～4回生の全学部向け、選択科目で前期2単位の科目ですが、毎年、80名ほどが単位を取得しています。

### 3. 2 個別対応講習会

これは今年度から始めた試みで、ゼミ・授業の1コマ、講座、学科、学部、有志等のグループ単位で申し込んでもらい、内容は希望に応じてカスタマイズするという形式の講習会です。今までに、法学部1回生の一クラスや、1回生向けポケットゼミ、農学部の研究室などから依頼を受けています。

#### 4. 部局における講習会の支援、連絡調整

京都大学は附属図書館以外に 50 以上の図書室があり、それぞれ独自に運営されています。そのような部局図書室が独自に講習会を企画した場合、依頼があれば、当館の参考調査掛から人員を出して、支援を行います。昨年度は、工学部等図書室が企画した「工学情報を get しよう」という講習会の一環として、Web of Science 初級実習を担当しました。

また、データベース提供元等、学外から講師を招いて講習会を開催する場合、希望部局を募り、どこのキャンパスでいつ開催するか等の調整を行っています。

#### 5. 図書館の資料・利用に関する情報の提供

これは、上で述べてきたように「人を集めて何かする」のではなく、利用者が自ら学びたいときにいつでも学べるように、あらかじめ情報を提供する、というものです。具体的に言えば、資料の利用方法等のパンフレットや、ホームページでのオンラインマニュアル等が該当します。

当館では、毎年、『access.txt - 文献調査・利用ガイド』という冊子を作成しています。この冊子では、附属図書館で資料・情報を探す手順を詳細に紹介しています。また、今までに利用者から寄せられた質問とその回答例も掲載しています。この冊子は、館内で無料配布するほか、Web でも公開しています。

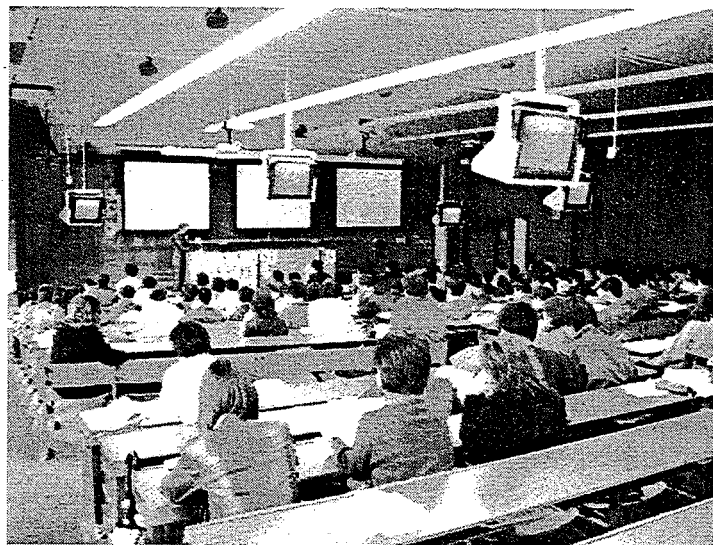
また、上記の「定期講習会」に使用するテキストも Web で公開しています。

#### 6. おわりに

以上、当館での「情報リテラシー教育」の現状を簡単にご紹介いたしました。しかし、京都大学における「情報リテラシー教育」はまだまだ不十分な点も多く、今後の課題も多くあります。たとえば、6年目に入った「情報探索入門」の内容の見直し、教官とのさらなる連携、部局図書室との連携、クイックレファレンス等自学自習のためのツールの充実、留学生への対応等々、枚挙に暇がありません。

京都大学での図書館における「情報リテラシー教育」はまだ発展途上の段階にあり、さらなる工夫と努力を重ねていかなければならないと思っております。

ふじわら ゆか (京都大学附属図書館情報サービス課参考調査掛)



## ◆2002 年度会費納入のお願い

新緑の候、会員の皆様におかれましてはご健勝のことと存じます。2002 年度大図研会費及び支部会費の納入状況をお知らせいたします。すでに年度も大半を過ぎていますが4月9日現在で納入率はようやく約5割という状況にあり、なかなか数字がのびません。

会費納入率の低下は大図研の活動に影響を与えるだけでなく、支部セミナーなどにも悪影響を及ぼします。納入いただいていない会員の皆様におかれましては、一刻も早い会費の納入にご協力いただきますようお願いいたします。

## 記

大学図書館問題研究会会費	¥5,000
京都支部会費	¥2,000
合計	¥7,000

会費は下記口座に郵便振替でお送りいただくか、お近くの支部委員にことづけていただきますようお願いいたします。

郵便振替振替口座番号 01090-4-5904

大学図書館問題研究会京都支部

ご不明な点は京都支部財政担当・吉田（京都工芸繊維大学）までお願いいたします。

myos@m02.mbox.media.kyoto-u.ac.jp

(大図研京都支部共催企画・学術情報ワークショップのお知らせ)

## 「学術情報流通の新たなステップ：学術文献宇宙とリンク機能の展開」

日 時：2003 年 6 月 14 日(土) 午後 1 時より (12 時半より受付開始)

場 所：大阪市立大医学情報センター 7F・大ホール

<http://www.msic.med.osaka-cu.ac.jp/msic.html>

参加費：無料

申込方法：<http://www009.upp.so-net.ne.jp/dtkk/ws2003.html> をご覧ください

12:30 受付開始

13:00-13:10 開会のあいさつ

北克一氏 (大阪市立大学創造都市研究科教授)

13:10-13:50 「電子ジャーナルを中心としたリンク機能の展開」

富岡達治氏 (京都大学人間・環境学研究科総合人間学部図書館)

13:50-15:20 'Webfeat Solution: Managing your collections with limited resources'

J.クロビス氏 (ISI グローバルセールスサポート・ディレクター) \*通訳つき

15:20-15:35 休憩

15:35-16:40 「OpenURL と学術情報ナビゲーションツール：日本語実装の可能性と運用例-」

蓼沼宏昭氏 (ユサコ株式会社テクニカルサポートグループ・グループリーダー)

16:40 閉会のあいさつ

主 催：「学術情報ワークショップ」実行委員会

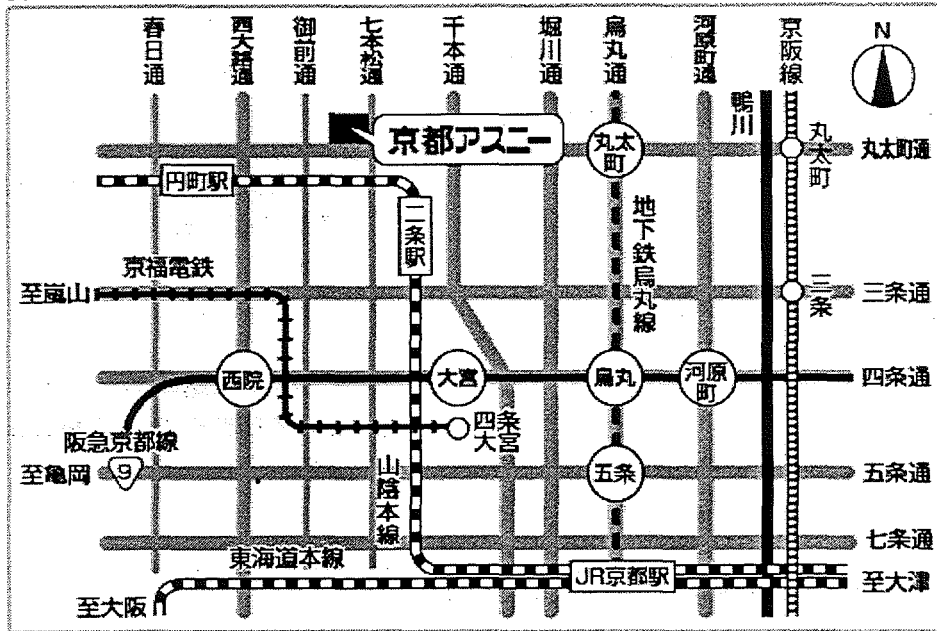
事務局：呑海 (京都大学人間・環境学研究科総合人間学部図書館)

e-mail: donkai@lib.mbox.media.kyoto-u.ac.jp

(共催) 日本図書館研究会 (予定) / 日本図書館研究会・マルチメディアと図書館研究グループ / 大阪市立大学創造都市研究科 (予定) / 大阪市立大学学術情報総合センター

6月28日(土)開催・京都支部主催ワンディセミナー  
会場案内地図

【京都駅からの地図】



JR 近鉄 京都駅から	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地下鉄／約5分→丸太町下車後、市バス 93・202・204／約10分→丸太町七本松下車</li> <li>●市バス 206／約22分→千本丸太町下車、西へ徒歩 300m</li> <li>●JRバス／約20分→丸太町七本松下車</li> </ul>
JR 地下鉄 二条駅から	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市バス 15、京都バス 61・62・63・65、JRバス／約5分→丸太町七本松下車</li> </ul>
阪急 大宮駅から	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市バス 6・8・46・55・201・206／約8分→千本丸太町下車、西へ徒歩 300m</li> <li>●JRバス／約10分→丸太町七本松下車</li> </ul>
阪急 西院駅から	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市バス 202／約10分→丸太町七本松</li> </ul>
地下鉄 丸太町駅から	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市バス 93・202・204／約10分→丸太町七本松下車</li> </ul>
京阪 三条駅から	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市バス 15、京都バス 61・62・63・65／約20分→丸太町七本松下車</li> </ul>
京阪 丸太町駅から	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市バス 93・202・204／約15分→丸太町七本松下車</li> </ul>
JR 円町駅から	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市バス 15・93・202・204、京都バス 61・62・63・65、JRバス／約3分→丸太町七本松下車</li> </ul>

[http://web.kyoto-inet.or.jp/org/asny1/about/institution/honkan/honkan\\_map.html](http://web.kyoto-inet.or.jp/org/asny1/about/institution/honkan/honkan_map.html) より  
〒604-8401 京都市中京区丸太町通七本松西入ル  
京都市生涯学習総合センター「京都アスニー」